

校長の話

校長 上村 哲也

暖かい日が多くなり春めいてきました。登校してくる皆さんの表情も明るく、残り少ない3学期を大切に過ごそうという気持ちを感じます。

さて、今日はまず素晴らしいニュースを紹介します。この話の主人公は、4年生のAKさんとOAさんの二人です。2月20日（月）の午後、場所はスーパーマーケット・ベルクの東側道路でした。自転車に乗っていたご高齢の方が道路に倒れ、苦しんでいたそうです。そこを通りかかった二人は、OAさんがもっていたキッズ携帯で110番へ通報し、一人はその方に寄り添って声をかけて励まし、もう一人はベルクの駐車場へ行き、そこから救急車を誘導したのだそうです。幸いなことにその方に大きなけがはなかったそうです。二人はとても落ち着いている的確な対応であったと救急隊の方から連絡をいただきました。素晴らしい行いですね。とても嬉しく思います。ありがとうございました。

では、ここから本題に入ります。これは2月23日発行の「読売子ども新聞」です。見出しには「街が一瞬で・・・トルコ地震死者4万人以上に」とあります。2月6日にトルコで2回の大地震が発生しました。昨日のニュースでは、隣国のシリアと合わせて、亡くなった方は5万人を超え、100万人以上の方が避難所やテントなどで避難生活を送っているとのことです。

日本もトルコと同じように地震がとても多い国です。今から12年前の2011年にとても大きな地震が起きました。東日本大地震です。その時の映像を少し見てみましょう。

※動画視聴 約1分

東日本大地震では、1万5900人ほどの方が亡くなり、2,523人の方が行方不明となっています。



NHK 首都圏ナビ HP より

<https://www.nhk.or.jp/shutoken/newsup/20230220>

NHK アーカイブス HP より

https://www2.nhk.or.jp/archives/tv60bin/detail/index.cgi?das_id=D0009030365_00000

東日本大地震の時、トルコ政府が救助チーム32人を派遣し、およそ3週間の救助活動を行ってくれました。この他に、食料や水、毛布などを宮城県や福島県の被災地に届けてくれました。外国からの支援チームとしては一番長く活動してくれたのだそうです。



実は、日本とトルコは昔からとても仲が良いのです。なぜ仲良しになったのか、その原点を紹介します。

※動画視聴 約2分

和歌山県公式チャンネルより

<https://www.youtube.com/watch?v=tVT4ufsvDno>

このように、日本とトルコは長い間お互いに助け合ってきました。



次に紹介するのは「朝日小学生聞」です。見出しは「世界からの助けが必要」、そして、トルコ地震で捜索や医療活動、避難者への支援を行っているNGO「ピースウィンズ・ジャパン」という民間団体の記事が載っています。では、活動の様子を紹介します。

ピースウィンズ・ジャパン HP より

<https://peace-winds.org/support/turkey-earthquak>

※動画視聴 3分45秒

今、トルコ地震では多くの人々が世界中の助けを必要としています。

和たちたちに何ができるのでしょうか。ピースウィンズ・ジャパンで活動する人の言葉を最後に紹介します。

「これだけ大きな災害だと元の状態にもどるまでに時間がかかります。地震が起きたことを忘れないでもらうことが大事です。」

それから、寄付が必要だそうです。スムーズに支援が行き渡るよう、物品ではなくお金を送って欲しいと話していたそうです。

一小でも、児童会による募金活動が予定されています。みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

